締水まちづくり協議会
たより
平成２４年１月２０日
締水まちづくり協議会
６７号

今後の行事予定

ふれあいウォーキング
1月22日(日) 8時30分受付開始
集合場所　安楽天神

このまちミーティング
2月 9日(木) 19時より
場　所　櫛田地区市民センター

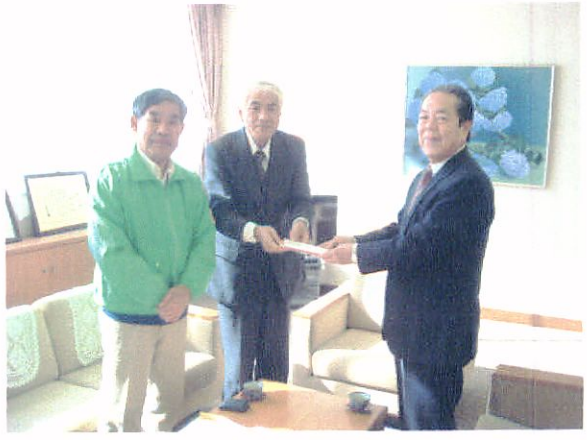
締水まちづくり協議会　第7回　総会
4月 8日(日) 13時30分より
場　所　JA松阪本店 3階

新年を迎えてごあいさつ

締水まちづくり協議会
会　長　久瀬　宰

明けましておめでとうございます。昨年は次から次へといろんなことが起きる大変な年でした。今年こそよい年にしたいと思います。皆様におかれましてはいかがでしょうか。ご家族お揃いで新年を迎えられたことと思っています。

さて、昨年は協議会行事で大変お世話になりました。いよいよ今年4月から松阪市の全域で一斉に「まちづくり協議会（住民協議会）」が始まります。その点、わが締水は、松阪市の中でも3番目に早く協議会を平成18年10月より立ち上げ、これまでに6年間の実績を作り上げ、他の協議会を一歩も二歩もリードしています。自分の地域の課題を掴み、組織を生かし自分たちで解決をするという仕組みを作り上げてきました。どの行事を見ても発足当時より皆さんに楽しまれ、地域に根付かせ、ひと回りもふた回りも大きく育て上げ、地域の絆づくりや活性化に大きく貢献してきました。これも地域の皆さんのご理解ご協力があったからこそと深く感謝申し上げると同時に、私はこの地にまちづくり協議会を設立して、本当によかったと心より思っています。


紀宝町にて、久瀬会長（中央）と次期会長の葉山さん（左）

行事を通して人々が交流し、まち中では自前のパトロール車が巡回し地域の安全安心を守り、二度の義援金活動では地域の皆が参加し、他地域の人にも温かい支援の手を差し延べられるまでになりました。

これからの日本では、少子高齢化の中、これまでのような経済発展は望めず、昨年の未曾有の地震、洪水などの自然災害が頻発し、災害は大切な財産、大切な家族をも瞬時になくす恐ろしさを我々に教えました。何もかも今までどおりには立ち行かなくなりました。誰も不幸になりたくはありません。しかしこれからの長い人生、「まさか」という坂が私たちを襲う要素はいっぱいです。これからの社会は、近所同士で「絆」を大切に育み、皆で「助け合う時代」だ、と思っています。助け合いは、顔と名前がわかって始めてできるものです。

誰しも経験することですが、何かで塞ぎこんでいるとき、「お元気ですか」というちょっとした近所の人の一言でどれほど気持ちが救われることか計り知れません。私たちは声の掛け合いのできる、心を掛け合い温かく助け合いのできる地域社会を目指し、皆で協議会活動に取り組むことが大切だと思っています。

私たちは、平成17年、当時の原田俊夫連合会長を中心とした協議会準備会の皆さんが、松阪市の中でも先進的にこの「締水まちづくり協議会」を誕生させたことに感謝し、協議会をこれまで以上に将来に向かって大切に、着実に発展させたいものです。

新年あけましておめでとうございます

平成24年度
締水まちづくり協議会
会　長　葉山　和則

来年度（4月）より会長をさせて頂ける葉山和則（伊賀町）でございます。…と申し上げても会員の皆様の殆どの方は「何者だ―」と思われるでしょう。

私も皆様との面識は殆ど有りません。そんな間柄の中でこの大役をさせて頂ける事は私にとって大変名誉で有難い事でございます。私と皆様を結ぶものは「信頼」と「信用」だけです。私が皆様を「信頼」し皆様は私を「信用」していただく他はございません。その為には相互に「目」と「耳」と「口」を活用して情報を交換する事から始めねばなりません。私は大きな声とアクションで皆様に情報を発します。皆様はそれに対して、「目」と「耳」で冷静に受け止め大きな「口」で反応して下さい。私はそれを「目」と「耳」でしっかり受け「口」を通して皆様にお答えしたいと思います。この繰り返しをもってお互いの「信頼」と「信用」が生まれ、それが「絆」を深めていくと確信しております。私は昭和19年生まれの「申年（さるどし）」です。「目」と「耳」と「口」はまだまだ大丈夫で信用していただけると思っています。会員の皆様の「目」と「耳」と「口」に絶大なる「信頼」を置いて新年度よりの協議会運営をさせて頂きます。

新年早々より理屈っぽい事を申し上げますが御理解と御協力を頂きます様、お願い申し上げまして挨拶に代えさせて頂きます。

平成24年を迎えるにあたって、今考えること

掃水まちづくり協議会
会長　久瀬　宰

【※前号からの続きです。】

○　今後、掃水まちづくり協議会には、次のようなことが期待できます。

今の協議会には楽しい地域のまちづくりのために、8つの部会があります。地域の皆さんが普段心配されている次のような課題は、関係する部会を通し、その多くが達成・解決できるように思われます

総務部会

・6年が経つ今こそ、本部役員全員で他市の先進的な住民協議会を視察して、当協議会の活性化を図ってはどうか。

地域振興部会

・地域に新しくできた店には2～3回程度、「協議会たより」へ無償で載せ、後は1回で千円程度の広告料をとればどうか。また、スーパーなど広告を格安料金で取ればどうか。

・地域の特産品を月に1回程度定期的販売を農家に促し、どこかで販売すればどうか。

・耕作放棄の畑を団地の方の家庭菜園に提供できないだろうか。

・松阪市のいくつかの住民協議会や地域の食事店と連携して、まちコン（まちづくり協議会での合コン）を開催してはどうだろうか。若いカップルが生まれそう。

体育部会

・山下の総合運動公園で運動会をしてみてはどうか。その後で、記念の植樹をするとかできないだろうか。

・新春、地域の皆と伊勢神宮までの恒例ウォーキングはできないだろうか。

安全防災部会

・中学生の帰りが遅い。帰り道が心配でなりません。街灯のこと、中学校との話し合いなど話し合うところが欲しい。

・「いざ」となった時、中学生や小学生の力が大切だとテレビで知った。地域と一体になった災害訓練が要るのではないか。

・今の訓練や話し合いだけで、地震、洪水対策は大丈夫なのか。

健康福祉部会

・この地域でも高齢者が増えてくるが、それぞれの家庭でどう接していくのが良いのか心配だ。講演会や相談会を開催してはどうか。

・各地区にスーパーへも出かけにくい独居老人が増えてくる。協議会で電話注文を受け、協議会でまとめて買い、それを届けるサービスはできないだろうか。

環境美化部会

・クリーン作戦と繋げ、掃水校区でも町内別や自治会別で一斉に周辺のゴミ拾いをする日を持ったらどうか。

・地域各世帯にグリーンカーテンを広め推進してはどうか。

・資源物回収を増やし、増益金の一部で各世帯に花の種を配り、空き地に花を植えるなど花一杯の地域にはできないだろうか。

教育文化部会（女性部会と統合してはどうか）

・松阪で一番挨拶ができる地域、人にやさしい地域として推進できないか。

・夏休みに子どもの学習を週1～2回程度、一学期の復習や夏休みの宿題を中心に見て欲しい。

・勉強をしないわが子をどのようにそだてるのか講演会や講習会をしてほしい。

・最近、学童への希望者が多くなってきた。もっと多く収容してほしい。何とかならないでしょうか。また今の掃水の学童の状況を「協議会たより」で地域の人に知ってもらいたい。どうすればよいのか。

○　今こそ、協議会には学校や地域の皆さんの協力が必要です。

協議会ではこの地域をよくするために、少しでも多くの世代の方が参加し、皆でまちづくりができることを大切に考えています。これまでの協議会や学校、それに自治会関係者のみならず、広くPTAや会社勤めをするなど若い世代にも多くの参加を呼びかけています。皆さんの参加・協力をお願いしたく思います。

1、今、まちづくり協議会では、部会の会員を募集しています。「○○部会に入って自分の思いを実現したい」、「○○部会の活動に興味を持っています。空き時間を利用し、参加したい」などと思って見える方は是非参加を申し出てください。まちづくり協議会活動は、魅力的な部会活動とそれを支える若い世代の積極的な参加があるかどうかでぐっと変わります。

2、勤めながらの参加も可能です。

現在の当協議会の構成員はどちらかというと定年後の方たちが中心になって活動をして頂いています。

私たちは将来の協議会に向けて、20代30代40代といった若い方たちが、この掃水の地域を元気のある地域や自分達の子どもたちが誇りをもてる地域にする為になど、どんな活動をするのか、若い方たちがもっと声を上げて欲しいと考えています。この地域の将来は、若い方たちにかかっているのです。

今の協議会はでは夜7時からの会議が中心です。また行事の多くは土・日です。会社勤め、公務員の方など積極的な参加をお待ちしています。自分たちのサイクルに合わせて協議会運営を決めていただきたく思います。忙しいときはお互い様です。休んでいただいて結構です。自分の思いを実現するために地域の人と「掃水まちづくり協議会」に、参加をお願いします。

3、地域は学校と一緒になって、皆で子どもを育むことが大切です。

私たち協議会は、「地域の次代を担う子どもを育てる」という観点から十分とはいえませんが、「地域の文化の伝承」、「ふるさとを思う気持ち」、「あいさつの大切さ」、それに

最近の「環境問題」、「高齢者問題」などにもいろいろと取り組んできました。

しかしながら、例えば学校と連携し取り組んだ「あいさつ運動」では、地域になかなか根付きにくかったようです。どうしてでしょう。それには、理由が二つあるように思われます。

ひとつは、一昔前、子どもは地域で育てられるということがよく聞かれ、大人の指導にも期待をし、協議会でも地域や子どもを対象にいろいろと啓発を行ってまいりました。しかし前半の部分でも述べたように、大人同士のあいさつは少なくなり、なかなか子どもに範を示せる環境にはならなかったようです。

それともう一つは、これまでも学校と共に取り組むことを学校へ働きかけましたが、その取り組みが日常的なものにはならなかったことや地域と学校とが別々に取り組み、一体となった力強い取り組みにはならなかったことであります。やはり、学校と地域とが本当に子どもを育てるということを考えるなら、学校と地域とが一緒になって、今までとは一歩踏み込んだ話し合いをすることが大切です。

来年からは小学校区に協議会が設立され一層の連携が望まれます。学校が教育方針として挙げ、本当に地域に開かれた学校を目指すならば、より積極的に地域と連携した主体的な取り組みが大切ではないかと思われます。また地域にはいろんな教育力を持った人が多くいます。協議会を通し、いろんな場面で学校が地域の教育力をより活用し工夫すれば、単なる形だけの連携でなく地域と一体になった教育は、大きく進むように思います。運動会、文化祭など地域住民にもっと近づければ、地域を巻き込んだ、本当に楽しい学校づくりができるように思います。

以上

シリーズ自治会だより（八）

伊賀町の獅子舞

伊賀町　三宅　忠行

伊賀町は、江戸初期以来独立した一村を形成していましたが明治九年に豊原村之合併編入されました。いつ頃から獅子舞をやっていたのかは、何もわかっていません。伊賀町では長男として生まれてきた人は、学校を卒業する年に獅子保存会に入るように決まっていました。

平成19年11月　掃水幼稚園にて

筆者は中学三年生の時に獅子保在会に入会（親の承諾をえる）、その時代、二月正月だったので一月は毎晩練習。保在会のみなさんが来られる前に火鉢に火をおこし、道具をそろえ用意をしました。練習は厳しいものでした。初年度は門舞しの練習、本日（ホンビ）には一番に舞す。

二年目四神来舞（シシルヤ）、三年目は、吉野舞、天狗の舞、最後に玉獅子を身につけました。そのあいまを見つけ笛の練習をし一人前。二月一日二日と上川方面から一件ずつ門舞し厄年の厄おとし、新築祝、子供の出生などの祝儀をもらい屋敷の中にはいり（よせ）やっていました。

昭和三十年頃から中学生の進学（高校入試）で入会する人がなくなり現在に至っています。高校卒業後、家にいる人は入会しそれなりに活躍しています。現在伊賀町獅子保在会員数は二十五名。一月の毎日曜日は練習を行います。

平成19年11月　掃水幼稚園にて

二十四年度は二月五日（日）に午前七時三十分より上川方面から東へ獅子舞が行われる予定です。七月十四日天王祭り（神社の祭典）に獅子頭を先頭に集落を回り神社で舞納を行います。

【四神来舞（しぐるま）】

右手に鈴、左手に白幣を執り、美しくしっとりと舞う。舞絹はしぼって後舞が持つ。最も芸能というか、恐らく日本一の優雅な獅子舞であろう。

シグルマとは神がのりうつって狂い舞うという意と、解釈しています。この舞は、さす手ひく手の振りの美しさはもとより、十二段の笛の音色に人々は魅せられる。太鼓と笛の伴奏、鈴の音もさやさやと、御幣は左右左と天地八方を清め祓う。

「四国八十八ヶ所霊場歩き遍路」物語（十三）

豊原町　岩塚　章

《いよいよ二番目のへんろころがし》

二十番鶴林寺の山に挑む。三十度以上の厳しい上り坂、いやこれが遍路山道だ。杖に力が入る。ボトルのお茶がすぐ空になる。あえぎあえぎの一歩、二歩となる。やっとやっと山門が見えた。鶴が舞い降りた伝説のお寺だ。お参り終り次の二十一番の寺がはるかに見える。そう堀坂山のように見える。下りの急坂が続く、足ががくがくとなる。五〇〇米の山から一気にはるか下を流れている那賀川にたどり着く。「お遍路さんお疲れさん。お接待です。御自由に召し上がって下さい」ダンボールに書いてあるみかんが沢山置いてある。松阪ではこんな風景見たことはない。喉は乾き疲労困ぱい。その時水分のダイヤ。おいしい。うまい。のどを通るその味覚を

何と表現したらよいか。那賀川の橋、もらったみかん一個二個のどを通り過ぎて行った。

二十二番　平等寺

さあ七〇〇米の山に向う。えらさ　つらさを字にしたいがその言葉がない。汗が吹き出て来る。服のまま川へどぼん。這い上がって来た時と同じくらいの汗の体になっている。ロープウェイの架かっている山。その山に歩いて登る。苦しいのはあたりまえ。二十一番をヤット参る。ダイエットしたければ四国歩いて一周して下さい。五十日で必ず五キロは痩せますよ。

「歩いている時何を考えているのですか？」問われて何を答えれば、今迄ぐうたらで過ごした七十年の人生。いろんなことが浮かんで来る。それも辛さですぐに打ち消される。やはり一にも二にもえらい辛い。その二語が宿に着くまでついて来る。その疲れが宿の湯船に体を沈めると今日の歩きの辛さが満足感に変るから不思議である。だから四国一三〇〇キロは歩き通せるのだと八十八番の大窪寺を参り終って知るのであった。二十二番平等寺を参り徳島県最後の薬王寺に向って老いの足をとぼとぼあるいていた。

「四国八十八ヶ所霊場歩き遍路」物語（十四）

豊原町　岩塚　章

《いよいよ徳島県のお寺をお参り終る》

一日三万歩。そして五万歩近く歩き通して来た。そうだ二十キロ、いや三十キロ近く歩いて来たのだ。毎日毎日豊原から鳥羽あたりまで歩いたことになる。

七キロの重いリュックを背負い七十才のオジンがよくも歩き通せたものだ。四国歩き遍路は次の寺があるから歩ける。あたり前のことのようだけれどこの単純な答えがぴったりの様に思う。だから歩ける不思議な遍路道である。

今日も二十二番平等寺から二十三番薬王寺まで二十一キロ歩いて来た。いつもより四キロくらい少ない。だがこれで徳島、阿波の国を歩き終えた。うれしさと満足感がお参りして「般若心経」のお経を誦え終えて体全体を包む心地をした。辛いお遍路の旅ではあるけれど、前回でも書きましたけれど夕食のテーブルに並んでいる色とりどりの料理が疲れをふっ飛ばしてくれる。生きていることのよろこびを教えられる遍路旅である。

薬王寺から次のお寺二十四番最御崎寺まで七十七キロ。途中二泊の旅となる。遍路道一三〇〇キロの中で一番長い遍路道中となる。一日二十五キロ歩かねばならない。左は限りなく太平洋。右は山続き。単純な国道五十五号線が南に向って延びている。中間一泊目は二十七キロ歩いて海部町のみなみ旅館。二泊目は三十キロ歩いて民宿ロッジ尾崎。今迄は一泊すれば二，三ヶ寺はお参り出来た。だがだが次のお寺まで途中二泊。こんな遍路道は心と体の葛藤、字に表せない苦悩だ。これがささやかではあるが修行というものか。とぼとぼと独り言を言いながら一歩又一歩と足を前に出して一日を終る。宿を出発する前の必ず行なわなければならない仕事、それが足の十本の指に巻くテープ。テープで白くなった足に二重かさねの靴下を履き一日の一歩を踏み出すのであった。

つづく

☆このまちミーティング☆開催のお知らせ

市民のみなさんと山中市長が意見交換し、まちの将来を語り合う《このまちミーティング》を開催します。

今年度のテーマは、「地域主体のまちづくり」と「市長マニフェストの検証」です。

地域独自の魅力的なまちづくりの可能性や、市長マニフェストの成果などについて話し合います。

○日　時
平成24年2月9日（木）
午後7時から

○場　所
櫛田地区市民センター

※申し込みは不要です。直接、会場までお越しください。

多くのみなさんのご参加をお待ちしております！

凧をあげよう!!を実施

24年1月8日（日）、お天気にも恵まれ、約200名の方々に参加していただきました。ありがとうございました。
準備運営していただいた皆さん、ありがとうございました。
体育部の皆さん、お疲れ様でした。

安楽町の連凧

親子での参加も大勢みえました